



保育サポーターバンク通信

2012年(平成24年)10月発行 社団法人山口県医師会 〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 TEL090-9502-3715 FAX083-922-2527



保育サポーターバンクの更なる活用について

山口県医師会長 小田 悦郎

平素は、山口県医師会の業務運営に格別のご理解、ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

山口県医師会では、最重要課題として医師確保対策をあげております。平成21年に山口県より女性医師の離職防止を目的とした「女性医師保育等支援事業」を受託したことに伴い、事業推進のために県医師会に保育サポーターバンクを設置しました。全国に先駆けた注目されているもので、バンク登録者も順調に増加し、現在は県下一円に130名と、発足当時の2倍以上になりました。また、バンク利用医師実数は21名

保育サポーターバンクに寄せる大きな期待

山口県健康福祉部長 渡邊 修二

平素より、本県の健康福祉行政の推進に、格別の御尽力と御協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、近年、全国的に医師不足が深刻化している中で、女性医師は増加傾向にありますが、その一方で、出産や育児といった事情により、途中離職をやむなくされるというケースが多くあります。

このため、県では医師確保対策を最重要課題の一つとして取組を進めており、中でも女性医師に対する支援については、医療機関が行う病院内保育施設の設定・運営など、仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境づくりを支援するとともに、山口県医師会への委託により、出産や育児に不安を抱える女性医師等の様々な御相談にお応えする窓口を設置しているところで、この相談窓口では、専任の女性医師保育

相談員による保育サポーター等の育児支援

と順調に推移していますが、微増の状況であり、「依頼待ち」のサポーターが多いのも事実です。

支援内容は医師の要望に柔軟に対応することができ、保育と併せて家事支援(掃除、洗濯物の取り込み、食事の支度、夕食の一品提供)なども可能です。

今後、山口県医師会として、広報を含め、利用件数が更に増加するよう努めてまいります。引き続き、サポーターの方々のご理解とご協力を、そして、医師の方々の更なる活用をお願いをして、ご挨拶いたします。

に関する情報提供等により、医師の仕事と家庭の両立を支えており、利用者の皆様から高い評価を頂いているところです。これは何よりも、保育サポーターの皆様やサポーターバンク運営に携わる皆様の御尽力によるものであり、県としても心より感謝申し上げます。

また、医師の皆様におかれましては、保育や育児、また一時離職後の職場復帰に関する事など、多くの御心配があらうかと存じますが、相談窓口と保育サポーターをしっかりと御活用いただき、安心して本県の医療の場で御活躍されることを願っております。

最後に、サポーターバンク及び保育サポーターの皆様の御健勝と、ますますの御活躍を祈念いたしまして、県からの感謝の言葉とさせていただきます。

第3回 保育サポーター研修会

第3回の研修会を本年3月11日(日)に山口市の県医師会会議室で開催しました。今回の講演は岩国短期大学の山縣明人教授による「わくわくドキドキの子育てー子供の心と遊びに響き合うサポーターとはー」です。いきなり、真つ赤なお鼻が飛び出すなど、先生独特の豊かな表現とパフォーマンスで、1時間半の講演は、参加者を引きつけたまま、あっという間に終わってしまいました。「次回もこの続きを聞きたい」とアンケートに書かれた方があるのも頷けるものでした。

地域別に分けたテーブルでの昼食懇談会もなごやかに進み、担当の先生や他のサポーターさんとの交流ができて良かった、と好評でした。一度参加された方の多くが続けてご参加くださっていることを見ても、有意義で楽しく過ごしていただけ



(講演抄録は本通信5ページに掲載)

平成24年度 研修会日程

サポーターの皆様へは改めてご案内を差し上げますが、下記のとおり開催予定です。万障繰り合わせてご出席くださるようお願いいたします。

日時：平成25年3月10日(日)
10時から13時

場所：県医師会会議室
(山口市吉敷
山口県総合保健会館内)

講演：講師…かねはら小児科医院(下関市) 金原洋治 院長
内容…子どもの病気の・子育て

その他：保育サポーターバンクの説明、
地区別昼食懇談会

サポーターさんの声 (平成24年8月 順不同)

◆ 梶間 やよひさん 下関市

「K君と出会って」

お医者さんのお仕事の大変さは以前より知っていたので、私にお手伝いできることがあればと思って登録をしていました。ご家族の愛情溢れる中で大切に育てられているK君の送迎や預かりなので、安全第一、次に当日、K君が一番安心できる活動や場所を予めK君・ご家族と相談して選び、楽しい「とき」を過ごさせるよう心がけています。また2回なのですが、K君が腫をキラキラさせて、大好きな恐竜のことや、自分で時間をかけて一生懸命作った「ぞう」を見せて、作る過程を教えてください、見たものへの質問や知っていること等、色々話をしてくれて、感心させられたり、笑ったりしているうちに、あっという間に約束の時間になってしまいます。回を重ねていき、少しずつリラックス出来るようK君のペースで又会えるのを楽しみにしてもらえよう、そして、安心して任せて頂けるよう頑張ります。少しでもお役に立てれば幸いです。



◆ Aさん

この度初めて保育サポーターの依頼を受け、すごく緊張しました。

改めて、前の「保育サポーター通信」を読み返してみると、みなさん、とてもよくサポートをされていて、私はまだまだだと反省する部分もあります。でも、私は今とても楽しくやっています。ご両親や子どもさんのことを第一に思いやってお手伝いしないといけないと思いますが、今回のお話があったことがきっかけで、自分自身がまず前向きになることができ、そして、この支援に生き甲斐が持てるようになったことに気がつきました。有り難いことだと思っています。まだ始めたばかりですが、これからもっと視野を広く、いろいろ勉強しながら、サポーターとしてお役に立てるようになりたいと思っています。

◆ Bさん

昨年11月から今年の7月までのお手伝いが終了しました。短い期間でしたが、久しぶりの赤ちゃんと一緒に時間、本当に幸せなひとときでした。

ネンネの時には、色々な子守歌を歌っていました。その中のお気に入り、多分、トアラハムには7人の子、1人はのっぽであとはチビ

く、でしょう。もう少し大きくなった時に一緒に歌って踊りましょうー覚えていてくれると嬉しいなア。

幸いに保育園の近くに家があります。また、時々遊びにいらしてくださいね。

〇〇ちゃんに会えるの楽しみにしています。大変お世話になりました。

◆ Cさん 周南市

4才の女兒と1才の男児の姉弟のお世話をさせていただき始めて、もう5か月になります。上のお姉ちゃんもい子に成長されており、弟の方もだいぶしっかりしてこられました。

始めは弟の方の食事は、私が介助をしていましたが、今では、自分で食べられるようになり、その成長ぶりには目を見張るものがあります。保育園でも、先生方に可愛がられているところを聞き、私までもうれしくなります。姉弟はとても仲が良く、お姉ちゃんはいつも弟をよく遊んであげていて、私はそれを微笑ましく見守らせていただいています。

現在、週に2回サポートに伺っていますが、先生が、心にゆとりができてほっとしています。とおっしゃってくださった、お手伝いさせていただいて本当に良かったと思っています。

今では、私の主人も、折り紙を買ってきてくれたりして、私のサポートを応援してくれてい



ます。
私がお手伝いすることで、先生が少しでも余裕をもって子育てができるようになったのであれば、これ以上の喜びはありません。これからも姉弟の成長を見守りながら、私自身も楽しみながら引き続きサポーターさせて頂きたいと思っています。

その他、活動中のサポーターさんから

●今では〇〇ちゃんも随分慣れてこれら、リラックスした様子で笑顔で私に色々な話をしてくれています。我が家の犬にも慣れ、怖がらなくなりましたし、うちの子ども達とてもとても良い関係ができていると思います。

●先生との面談では、相談員さんに同席して頂いたおかげで、お話しがスムーズに進み、子どもさんやご家族、そして私自身の不安が和らいだと思います。そして、先生には、幼稚園や託児所に事前に案内していただき、先生達への紹介もしてくださいっていて、いざ、サポーターが始まったときにスムーズに実施できました。とても良かったです。

●短い時間ですが、私なりに楽しんでお手伝いさせて頂いています。これからもよろしくお願ひします。



ある米国人の
保育サポーター

山口県医師会 男女共同参画部会長

松田 昌子

家族ぐるみで付き合ってきた親しい米国人の家族がいます。ご主人は医師、奥さんは看護師です。奥さんは、子育て中は休職していましたが子どもたちには手がからなくなったらすぐにパートで仕事に復帰し、やがては小さな病院ですがフルタイムの看護師として働き始めました。しかし、数年後に体調を崩し、仕事を辞めたと聞いていました。ところがさらに数年後に会った時は、女性医師の子どものベビシッターをしていると言って私を驚かせました。その女性医師は、総合病院の内科部長で、初めての子どもの当番にしていたベビシッターが急にできなくなつた窮状を、その人の友人でもある私の友人が見かねて引き受けたのでした。

米国のフルタイムで働いている女性医師は、家に来てくれるベビシッターを雇う人が少なくありません。週末以外は、朝から夕方まで医師宅で、赤ちゃんの世話をし、学芸などの時は数日間預かっていました。私の友人は、

結局2年間、その仕事をしたよつです。決してお金に困っているわけではないのですが、時間はあるし、子どもの世話は好きだし、感謝されて自分のお小遣いもできるのだから、と笑っていました。

事情の異なる日本で米国と同じことをすることはできませんが、山口県医師会の保育サポーターバンクのサポーターの方々と医師の関係は日本でやる子育て支援のひとつの新しいかたちかと感じています。

サポーターバンクの活動も4年目を迎えました。これまでサポーターさんの善意とやる気に支えられて仕事を続けている医師は21名になります。登録されている100名余りのサポーターさん全員にお願いするという状況ではありませんが、今後、若い女性医師が増えていく中で、県内各地に登録者がおられ、サポーターをお願いできるというのは大きな安心感を生みます。今後、もどうぞよろしくお願ひいたします。



利用者の声 (平成24年8月)

● 福江直子先生

(徳山医師会病院 循環器内科 38才)

昨年2月に第二子を出産し、その年5月に復職しました。第一子は3歳で、排泄など自分でできることは増えたものの、帰宅すると甘いたがり手がかかっていました。すでに夕食の支度、洗濯物の片づけは不在時にお手伝いさんに入ってもらっていましたが、帰宅して子どもたちの食事や入浴の世話をし、夜就寝しても呼吸がしづらく寝付けないうらいたびれていました。多分あと3年位したら、もっと楽になるのかもしれない、でもそこまで自分の身体がもつのだろうか、今年3月頼みの綱の夫が長期不在になる、困ったと頭を抱えていたとき、保育サポーターバンクのことを思い出し子ども預かりなどではないけど、帰宅後の子どものお世話を頼めないだろうかと考えました。



すぐに自宅近くのKさんをご紹介いただき、来てもらえる運びとなりました。帰宅する頃Kさんが自宅に来て、子どもたちの遊び相手、下の子の食事の介助、夕食の後片づけや入浴後の子どもたちの世話をしてくださいます。Kさんのご厚意に甘え、平日週2日きて頂くようになりました。最近ではどうしよ

サポートを受けられた方から感謝の声が寄せられています (順不同)

うもない疲労感と夕方保育園にお迎えへいくときの憂鬱な気持ちがなくなってきた、子どもたちが前にも増して愛おしく感じられるようになりました。核家族の孤独な育児環境が実は私を追い詰めていたのかなあと今になって思います。孤軍奮闘しなくていい、Kさんが助けてくれるという安心感が私自身を楽にしてくれました。夕方忙しい時間帯にきてくださるKさんにも、この保育サポーターバンク制度にも本当に感謝しています。



● B先生 皮膚科 42才

私は、実家の医院で外来診療をしており、5歳の息子が一人います。院長と二人体制で家族経営なので何かと融通はつきやすいものの、幼稚園のない土曜日などは近くの実家を頼ったり託児所を利用したりしていました。土曜日の夕方、特に夏は患者さんが多くお待たせしてしまうことも多いのですが、息子を母に預けることのできない日は、そんな患者さんを横目に診療を早く切り上げ、院長に任せて託児所へお迎えに行くのがふつうになっていました。

しかし、女医さんの集まりで保育サポーターバンクという便利なくみがある事を知り驚きました。自分の場合は利用が不定期となるので躊躇してしまい、なかなか踏み出せなかったのですが、今年の春、相談員の方から詳しくお話を伺い、サポーターさんを紹介して頂き、利用を始める事になりました。

まだ利用回数は少ないのですが、土曜日夕方の託児所へのお迎えをお願いし、その後診療が終わるまで子どもと一緒に過ごすことをしてもらいました。相談員の方のアドバイスもあり、事前にサポーターさんと打ち合わせ、顔合わせをしていたので、託児所との連携もスムーズにできました。とても話しやすい方で、打ち合わせの時から息子もすぐに慣れてたくさんおしゃべりしていたので安心しました。サポーターさん宅や自宅で過ごして頂くことを予定していましたが、今までの利用では、息子とサポーターさんで行先を相談して図書館や水族館、公園などで過ごして帰ってくるパターンが多かったです。こちらが最後の患者さんが終わり帰宅できそうな段階で連絡し、自宅まで車で連れてきて頂きます。診療時間最後まで安心して病院におられるので大変助かりました。息子も〇〇のおはちゃんと△△に行つたよ〇〇したよととても楽しんで報告していました。またある時は、数日前に急にお願したにもかかわらず快く引き受けて下さってとても助かりました。

私のように身近に頼る人がいる場合でも、いつでもOKとはいかないため、サポーターさんが一人ついて下さっているのは大変心強いです。自分で何とかしようとか、あきらめていた事が可能になるんだと実感しました。また、相談員さんには、こちらの必要なことを丁寧に聞いて下さり、いいサポーターさんとめぐり合わせて下さって、とても感謝しております。もっと沢山の方にこの制度を利用して良さを知って頂き、長く続いてほしいと思います。



● C先生 長門市

出産後、常勤としての職場復帰は、1歳過ぎてからと考えていましたが、それまで何の仕事もしていないと、復帰するときに不安があるだろうと考えるとにしました。勤務時間が短いので、保育園には預けることが出来ず、どうしようかと考えていたころ、保育サポーターバンクの存在を知りました。今まで長門市方面には、残念ながらサポーターさんがいらっしやいませでしたが、この度、募集をしてくださいました。乳児を他人に預けるのは、正直心配でしたが、最初にサポーターさんとお会いした時、その人柄からか、何となくこの人なら大丈夫、と思うことが出来ました。私が仕事の間、サポーターさんに自宅に来て頂き、数時間お世話をして頂きました。幸い自宅が病院からとても近かったので、途中で様子をみに行くことも出来ましたし、母乳育児も続けることが出来ました。別かれるときは泣いていた娘も、帰ると、サポーターさんと一緒に楽しそうに遊んでいたりと、気持ち良さそうにお昼寝していたりしていました。その様子をみて、私も安心して預けることが出来ました。今では、娘も1歳になり、私も常勤として職場に復帰し、娘は保育園へ行き、サポーターさんには定期的にはお世話になってはいませんが、何かのときにはお願ひしようと思っております。そういう存在があるだけで、気持ち的に全然違います。また、本格復帰の際に、仕事に対する不安がまったくなかったのも、よいサポーターさんに巡り会って、仕事を続けることが出来たおかげだと思います。

これから転勤等もあると思いますが、各地でサポーターさんの支援体制が整っていると、どこに行っても安心して仕事が続けられると思います。これからからも、なるべくお願ひしています。



平成23年度保育サポーター研修会 講演抄録

「フクフクドキドキの子育てー子ども心と遊びに響き合うサポーターとはー」

岩国短期大学 教授 山縣明人先生

社会生態学者でもあるドラッカーが、次のようなことを述べている。「現代は、1973年に始まり、2015年に終わる。」現代が終わるとは、今までの社会で通用していたことが、通用しなくなる社会の到来を意味している。

医者と言う職業は、従来は男性が中心の世界であったが、現在、女性のドクターが社会的進出をされて、その社会的ニーズは高まるばかりである。これに呼応してそれらをボランティアでサポートする方々のために今回の研修が開催され、明らかに新しい時代の予兆を感じた人々のための研修と言える。すなわち、現代の終わりを、次の始まりにつなげる方々の研修と言うことで、講師を依頼され、研修主題を決定した。



最初に私が参加者に手拍子を誘い、歌を歌い、研修参加者の気持ちを和ませる所から研修はスタート

トした。次に、幼児たちがいる園に行き、どのように彼らと出会うかを、自分の鼻に赤くて丸いスポンジの鼻をつけ、壁のマイムをして実演した。今までもなかったところに壁が見える。見えないものを見る力と、この壁を、小さなベルを二つ出して、軽く打ち鳴らして、なくしてしまうパフォーマンスをした。お互いが、きれいな心と心で響きあうと、共感という力が働き、壁が消えることを感じてもらった。また、音が鳴ると言うことは、お互いに興味関心があるという意味に解して、一方が音をミュートすると、音色が変わり、両方がミュートすると力チカチと言う音になる。さらには、お互いが無関心になると音はしなくなると実演してみせた。

この無関心と言う状態こそ、人間が、もっとも人間を残酷で獰猛で、いやらしい存在に貶めるものであることを伝え、初めて出会うあらゆる人、いかによい響きを持って音色を奏でるかを説明するとお伝えして、研修をスタートした。

そこで、どのように子どもと響きあう、つながるかを、素直論を中心にお話した。相手が大切だと思つものにつ

ながる力が、素直という言葉の意味と構えであることを伝えた。そして、大切なものにつながるには、「見ると「聞く」という態度に秘訣があると説明した。

「見る」時には、見たもののイメージと感情を一つにすること。「聞く」時には、相手の発した言葉の意味よりも、音色を聞き分けることであり、子どもの全存在を、受容するには、これらの「見る」と「聞く」という態度が肝要であると説明した。

さらには、その際に、どのように見て、聞くのかという身振りによる身体性と、その身体による子どもへのアプローチの方法や、言葉のかけ方をお伝えした。具体的な遊び方というよりも、その遊び方における感性と知性の育て方の原理を理解して頂いたつもりである。子どもの興味あることを、パッと感じて、つながり、それを広げていくところに、子どもの遊びの世界は無限に展開していくことを予解して頂いたと思う。

私の拙い話につながって頂いたおかげで、楽しい講演となった。心から感謝して筆を置きたいと思う。

相談対応あれこれ
保育相談員 崎里節子



「達筆のお葉書」
桜の舞つきれいな絵はがきに達筆のお八ガキ。定期的なサポーターが終了してこれからは先生の都合が悪い時のみになるとのサポーターさんからの報告。その区切りの日、ご家族から丁重なお挨拶を受けられて感激した。お互いの信頼関係の元での温かいご支援だったことがひしひしと伝わってきてうれしい。サポーターさんありがとうございました。

「先生良かったですね」
サポーターを受けられているK先生から、3人の子育てで奮闘しておられるH先生が大変なようなのでバンクの資料を送ってあげてほしいとの紹介メール。K先生はサポーターを受け始めてから、「頼れる人」があることに心強さを感じ、「今からも頑張れる。」と思えるようになったとのこと。きつと明るくて素敵な先生と優しく温かいサポーターさんがうまくいっているんだわ、と、ほんわか嬉しくなる。寝返りができるようになったというかわいいうちのCちゃんの写真も添えてあった。わあ、もうこんなに大きくなったの、かわいーっ!!

「誰でも心配ですよねえ」
先生との面談日時も設定して、その日待つばかり。サポーターさんから「私でお役に立つかしら、大丈夫だろうか。」と不安のお電話。「大丈夫ですよ、先生も明るくて優しい方だし、ちょっと助けていただければとおっしゃっているだけです。心配なら、さうなら、それでも心配が消えないようなら、また、その時にご相談しましょう。」とお返事。結果ですか?「だんだん子どもさんにも慣れて、先生もいつも感謝してくださってうれしい。」と。ありがたいことです。

知っていると役立つ
医学まめ知識



小児の視力の発達と弱視

小郡第一総合病院 眼科 榎美穂

生まれたばかりの赤ちゃんの視力は0.01とごくわずか。眼球の構造はほぼ成人と同様に完成していますが、眼から脳への信号を伝えて映像にする仕組みが育っていないからです。その仕組みは実際にものを見て網膜から脳へと刺激が加わることで完成します。

この視力の発育段階(生後～5歳前後)に何らかの理由で網膜にはっきりと像が写らなかった場合、視力が育たず、あとからその原因が改善したとしても視力がでないことを弱視といいます。

弱視の原因には、斜視(片方の目がずれている)、屈折異常(遠視や近視、乱視)、不同視(左右で度が大きく異なる)、形態覚遮断(眼瞼下垂や白内障、角膜の濁りなどで光が網膜まで届きにくい状況、時に眼帯も原因に)等があります。

弱視を防ぐためには早期発見でその原因を取り除くことが重要です。眼が良く見えてないサインとしては、「片方の眼を細める」「首を傾げる」「よく見えるほうの目を隠されると嫌がる」等のしぐさ、「斜視」「眼振」「眼の表面や瞳孔が白く濁っている」など眼の外観、「反応が鈍い」「あきっぱい」等の動作などがあげられます。

編集後記

皆様のご協力のおかげで第3号も無事発行の運びとなりました。どの報告からも、サポーターさん方の誠意と愛情が子どもさんや医師に伝わっていることがひしひしと感じられますね。感謝、感謝です。

(保育相談員)



保育サポーター
募集中



引き続き「保育サポーター」を募集しています!

県医師会では、引き続き保育サポーターを募集しています。みなさまのお知り合いにお声かけを是非よろしくお願ひします。詳細はお問い合わせください。

【問い合わせ先】

山口県医師会 女性医師保育相談員
TEL 090-9502-3715 (月～木 9:00～17:00)
メールアドレス hoiku@yamaguchi.med.or.jp
FAX 083-922-2527

DATA

保育サポーター登録者数

(平成24年10月1日現在)

地域別	(人)		(人)
下関市	20	下松市	6
宇部市	29	光市	2
山陽小野田市	8	柳井市	3
美祿市	3	岩国市	10
山口市	22	萩市	3
防府市	5	長門市	3
周南市	12	熊毛郡	3
		大島郡	1
		合計	130